

“こんこんさん”の子育て

長男が生まれ、初めて経験する育児は“つまずき”ばかりで、今でもこのころの写真を見るとしんどかった思い出がよみがえってきます。公立芽室病院では、当時母乳育児を推奨していました。おっぱいなんて自然と飲んでくれるものと思っていたのですが、長男は上手に飲んでくれず体重がどんどん減っていきました。1か月が経ったころ私は乳腺炎と診断され、発熱、母乳のつまりを取るマッサージの激痛、食事制限に悩まされました。周りからは、順調に進んでいるママたちの声が聞こえてきて、気持ちが落ち込むばかりで、このころはめそめそ泣きながら育児をしていました。「子どもを大きくしなきゃ」と必死で、楽しいと感じる余裕は全然なかったです。

出産が24歳と早かったので、近くに悩みを話せるママ友もいなくて、私は助産師さんに相談したり、本を読んだりして知識を得ていました。産後は精神的に落ち込みやすく、けっこう泣きながら育児をしている人は多いみたいですね。もし今悩んでいるお母さんがいたら、私は経験があるから、力になりたいなって思います。

長男が3歳になったとき、次男が産まれました。好きだった介護の仕事もしばらく休んで、子どもといる時間を増やしました。次男は母乳で悩むこともなく、子育てがいきいきとしてきて、“お母さんをやれているな”という実感が湧きました。長男のときにつまずきを経験していなかったら、こんな気持ちにはなれなかったかもしれません。辛い経験があったから、子育ての楽しさに気付くことができたと思っています。

長男を町の健診へ連れていくたびに、周りの子よりも行動がスムーズにいかなかったり、体重を図ろうとしてもどこかへ行ってしまうたりして、“何かちょっと違うのかも”と感じるようになりました。周囲に話すと「お母さんの気にしすぎ」と言われ、家族にもなかなか理解してもらえませんでした。

このころ、子どもと一緒に子育て支援センターのすくすく広場へ通っていたので、そのときに相談をしてみると、発達検査をすすめられて、受けてみることになり、1歳～1歳半の発達の遅れがあることがわかりました。結果を受けて療育に通うことになりましたが、最初はレッテルを張られてしまう感覚や劣等感を覚えて、躊躇する気持ちがあったことは事実です。今となっては、もっと早く通えばよかったなと思っています。何より子どもの成長がみられたこと、そして療育に通うことで幼稚園でも気にかけてもらえるようになり、町も幼稚園も一緒に協力してくれて、“自分だけで子育てしていない”感じがしました。

三男は、人見知りが強くて、兄弟の中でも一番成長がゆっくりかなと思うのですが、それほど心配はしていません。困ったら相談して、必要なら支援を受けさせてもらおうと思っています。

「子育ては一人ですると辛いけど、地域に、みんなに甘えていいんです！」そう子育て中

のお母さんたちに伝えたいです。

現在中学生の長男は、反抗期を迎えています。初めて「お母さんはいなくていい」と言われたときは、ショックを受けて泣きました。「何その態度！」と怒ると、どんどんエスカレートして収集がつかなくなることもありました。

悩んでいたとき、長男がお世話になった先生から「反抗期は正義感。真面目な子だから余計に強く出るのかもしれないね。本人の考えがしっかりあるという証拠。」と励ましてくれました。長男のことを褒めてくれているようにも感じて、その言葉で反抗期に対する見方が変わっていきました。怒ってどうにかなるものでもないし、終わるのを待つしかないんだなと気持ちが楽になりました。

自分が子どものときは、“もっと勉強してたよな”とか、“もっと家の手伝いしてたよな”とか子どもたちの言動に「え？」と思うことはあるのですが、“自分とは違うから”自分の考えを押し付けないようにしようって思います。やりたいことがみつかって、目指すものができたら、自然と自分でやろうと思うのかな？と、そのときを見守っています。子どもの人生は、子どもが主人公。親はわき役中のわき役でしかありません。小さいときは親の存在が大事だと思うけど、大きくなったら大した存在ではないのかなって思います。

もともと自分の性格は完璧主義なところがありましたが、子育ては自分の思い通りにならないことの連続。壁を経験しながら、少しずつ妥協したり、“まあいいか”と思えたり、完璧ではない自分にも優しくできるようになりました。子どもが大きくなるのはあっという間だから、今は子どもたちにたくさんご飯を食べさせて、たくさん話をして過ごしたいです。そして、やりたいことがみつかったら、全力で応援してあげよう！そう思っています。

